

出典：青森県立保健大・社会福祉・推薦・01年

解答

問1 前章解説参照

問2

現代日本の学生の間蔓延する「人それぞれ」とする個人主義志向は、杓子定規に客観的・中立的立場を求めるべき
と思ひ込み、二つの意見が対立する時は足して二で割ればよいとする考えだ。この考え方では社会問題の大半が個人の好みと選択の問
題に矮小化され議論が成立せず、主張の対立の中からあるべき社会の姿を模索する努力を放棄することになる。個人主義志向は、戦後
日本教育が伝統や社会の抑圧に抗して個人の権利と自律性の尊重を強調してきた結果の一部と見ることが可能だが、個人の行為が周囲
に及ぼす影響に思いをめぐらさず個人主義を追求すると、単なる自分主義に終わってしまう。異なる意見を持つ人々に耳を傾け心を重
ねる努力を怠り、議論を高める努力を放棄するような考え方を結果として生みだしてきた、個人主義志向を無批判に是とする教育は、
そろそろ見直すべきである。

1 設問要求

- ① 筆者が何を主張したいと考えているのか、その論理の筋道がわかるように大意要約する。
- ② ①は四〇〇字以内にまとめる。

2 要求に応え、解答を作成するためのアプローチ

(1) 出題意図を理解する

受験小論文で出題されるのは「論述問題（＝あるテーマについて自分の考えを論理的に述べる問題）」だけではない。課題文を提示し、その内容を正しく（＝誤解・曲解せずに）読み理解する力が問われる「読解問題」を課す場合もある。その一つが、本課題のような「筆者が何を主張したいと考えているのか、その論理の筋道がわかる」形に、文の内容を凝縮する「大意要約」だ。これを出題する側の意図は、他者（としての課題文筆者）のものの考え方・論理展開を文章から読み解き受けとめる力を君達受験生が持っているのか否か、チェックする点にある。

(2) 課題文の論理構造を理解する

I 序論（形式段落①）……導入部分

▽1 筆者の関心の対象（論じようとしている問題点）＝学生の中に蔓延する「人それぞれ」で「何でもあり」とする個人志向的考え方

▽2 ▽1についての筆者のとらえ方＝「人それぞれ」で「何でもあり」となれば）社会問題の大半が個人の好みと選択の問題に矮小化され議論が成立しない。

II 本論(形式段落②)⑧……論証部分(II 具体的事実に基づき、筆者が関心を持つ学生の「個人志向的考え方」を分析)

【本論パート1 II 具体的事実 (②③④)】

▽3 ▽2のようならえ方をする筆者が(教育者として)したこと II

これから免許を取得する若者に交通事故や被害者の人権について考えてもらおう意図で、学生達に二木雄策氏の『交
通死』という本の読書リポートを課す。

↓その本の主張 II 加害者の過失(信号無視)で娘を失った被害者の立場から、加害者に手厚い現行の諸制度は「人の命
よりも車を重視する社会」だとする主張。

【本論パート2 II 学生の反応の分析及びそこから見えてきたもの (⑤⑥⑦⑧)】

▽4 その本の主張への学生の反応 II 「加害者がかわいそう」 II 被害者の立場からの主張のみでは「客観性に欠ける」「二方的
だとする

▽5 その反応から筆者が見出したもの II ▽1で言及されていたことの言い換え

杓子定規に客観的・中立的立場を求めなければいけないという思い込み II 異なる二者の意見の対立が存在する時は足し
て二で割ればちよūdよいという考え(II 「人それぞれ」という考え方)

▽6 そうした反応をする学生を筆者がどうとらえているか II ▽2で言及されたことの言い換え

・ 加害者と被害者の対立図式にこだわり、問題の社会的広がりには気がつかない
・ (社会正義は対立する意見を足して二で割るといような手続き上の公平さに求めざるを得ないような学生達の反応
は) 主張の対立のなかから、あるべき社会の姿を模索する努力を放棄している

III 結論(形式段落⑨⑩)……まとめ

▽7 現代日本社会における個人主義的なものの見方・考え方の浸透に関する一般的とらえ方……

戦後日本教育が、伝統や社会の抑圧に抗して個人の権利と自律性の尊重を強調してきた結果の一部

▽8 (▽7を踏まえた上での)筆者の「個人主義」観と問題提起……

・個人主義は両義的

・個人の行為が周囲に及ぼす影響に思いをめぐらさないで個人主義を追求すると、単なる自分主義に終わってしまう（のではないか）。

▽9（その問題提起に対する）筆者自身の主張……

異なる意見を持つ人々に耳を傾け心を重ねる努力を怠り、「人それぞれ」「何でもあり」と初めから議論を高める努力を放棄するような私たちの考え方を結果として生みだしてきた個人主義志向を無批判に是とする教育は、そろそろ見直すべき。

3 「筆者が何を主張したいと考えているか、その論理の筋道がわかる」大意要約を作成する

↓論理の展開がわかるよう、要約すべき要素（ポイント）を整理し指定字数以内に凝縮する

約一六〇〇字程度の課題文を、要求に従って（＝筆者が何についてどのような主張を述べているか、その論理展開がわかるように）指定字数（＝四〇〇字）以内に重要な要素（＝要約すべきポイント）を凝縮していく。そのためには、前項「(2) 課題文の論理構造を理解する」で見えてきたように、個人主義志向の学生の考え方とそれに問題意識を感じ疑問視している筆者自身の考え方の対照的な関係を意識し、同様のことを別表現で言い換えている部分を整理する（＝重複を省く）。そうした作業をしてから、自分の考えや価値観を混ぜぬよう、キーワードを活用し、筆者の論理の筋道がわかるようにまとめていく。以下、要約したい重要要素（ポイント）の整理例を記しておく。参考にしてほしい。

★要約したい重要要素（ポイント）……整理例（▽は前項「(2) 課題文の論理構造を理解する」で記述されていた番号に対応する）

① 論点（筆者が論じようとしている問題点）……▽1・▽5部分で繰り返し言及されているので整理すべき

・現代日本の学生の間に蔓延する「人それぞれ」で「何でもあり」とする個人志向的考え

・杓子定規に客観的・中立的立場を求めるべきと思込み、二つの意見が対立する時は足して二で割ればよいとする考え

② ① (≡今の学生の考え方) についての筆者自身のとらえ方……▽2・▽6の部分で繰り返し言及されているので整理すべき

・ 社会問題の大半が個人の好みと選択の問題に矮小化され議論が成立しない

・ 主張の対立の中から、あるべき社会の姿を模索する努力を放棄している

③ ① (≡今の学生の考え方) の浸透に関する一般的なとらえ方……

↓次の④(筆者の考え方) が社会一般のとらえ方と違っていることをクリアにするために字数に余裕があればおさえない

・ 戦後日本教育が、伝統や社会の抑圧に抗して個人の権利と自律性の尊重を強調してきた結果の一部

④ (③とは対照的な) 筆者の個人主義観と問題提起……

・ 個人の行為が周囲に及ぼす影響に思いをめぐらさず個人主義を追求すると、単なる自分主義に終わってしまうのではないか (↓個人主義の退廃)

⑤ 筆者の主張……異なる意見を持つ人々に耳を傾け心を重ねる努力を怠り、最初から議論を高める努力を放棄するような考え方を結果として生みだしてきた個人主義志向を無批判に是とする教育は、そろそろ見直すべき。

4 要約の場合の原稿用紙の使い方

要約文を作成する時は、基本的には段落分けは不要。原稿用紙のマス目は字数をカウントするための道具とみなし、一字一マス・一記号一マスを徹底して書いてよい。また、冒頭一マス目から書き出してよい。

